



## 資金申請書

### 1. 資金申請者

団体名 食品放射能計測プロジェクト共同運営委員会  
(東北ヘルプ、いわき CERS ネット)  
代表者 川上直哉 (東北ヘルプ 事務局長)  
経理担当者 田中武司 (株式会社 けやき経営サポート 代表取締役)

2. 申請者所在地 〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町1丁目13-6 D

### 3. 申請者連絡先

電話番号 022-263-0520  
ファックス 022-263-0521  
電子メール sendai@tohokuhelp.com

4. 申請日 2011/9/26

5. 申請額 ■■■■■■■■■■ 円

6. 企画名 食品放射能計測プロジェクト

7. 企画期限 2011/12/1 ~ 2012/11/30

### 8. 必要提出書類

- ① 企画詳細内容
- ② 予算措置 (企画詳細に対応する形で記載してください)
- ③ 昨年度の収支決算書・監査報告書・・・昨年度の決算書・監査報告書はありません。

JEDRO 記載欄

--	--	--	--

# ◆①「食品放射能計測プロジェクト」企画書◆

(2011・9・26)

◇仙台キリスト教連合被災者支援ネットワーク（東北ヘルプ）◇

◇いわきキリスト教連合震災復興支援ネットワーク（いわき CERS ネット）◇

## 1. プロジェクトの目的

仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（以下、東北ヘルプ）は、2011年3月11日に東日本で発生した地震・津波・原発事故という三重の災害に対して、被災地の教会を支援し、さらにそれらの教会を通して被災地を支援しようと活動している。[\(http://tohokuhelp.com/\)](http://tohokuhelp.com/)

また、いわきキリスト教連合震災復興支援ネットワーク（以下、いわき CERS ネット）もいわきにある諸教会の業として、被災者の復興支援の活動をしている。[\(http://iwaki-c.net/\)](http://iwaki-c.net/)

標記プロジェクトは、以上二つの教会ネットワークが「食品放射能計測プロジェクト」と称する共同プロジェクトを立ち上げ、被災地に住む人々にとって喫緊の課題である食品放射能の計測を可能ならしめるものである。本来ならば、高線量地帯である福島市・伊達市から郡山市に至る地域においてまず開始されるべき事業であるが、そこで食品放射能を計測する作業には技術的にも人的にも乗り越えがたい障壁が多くある<sup>(※1)</sup>。そこで、その周辺の人口密集地（いわき市、仙台市）において食品放射能の計測を開始し、高線量地帯の人々にもサービスを提供できるようにするものである。

原発事故発生後、食品放射能についての国の考えとして、食品安全委員会は「放射性物質に関する緊急とりまとめ」が、また原子力安全委員会からは、ICRP の勧告を参考にした「飲食物摂取制限に関する指標」が出された。しかしこれらは、①外部被曝と内部被曝の混同、②確率的影響についての疫学的な調査結果を無視、③「ストロンチウム90に対する懸念がある」としながらも対策の中には盛り込んでいない、など不完全なものと言わざるを得ない。特に毎日食す米（穀類）の基準値を500Bq/kg に設定したことにより、日本全国の食の安全が脅かされていると言って過言ではない。特に成長に伴う細胞分裂の活発な胎児・乳幼児には大きなリスクが生じると予想される。ECRR（欧州放射線リスク委員会）が発表した放射能汚染地帯におけるがん発生予想数は今後50年間で40万件である(The “Tondel” Method)。ゆえに、妊婦の食事、母乳、幼稚園・保育園の給食素材を中心に食物放射能の計測活動が必要である。また、子どもの内部被曝調査のため、尿の計測も重要な課題である。

しかし、食品の放射能を計測することが出来る機器は非常に高価であり、一般家庭で導入することは困難である。一方、100万円前後の比較的安価な計測器は誤差が測定値を上回ったり、身体に蓄積しないのでリスクが小さい放射性物質カリウム40を除外できないなどの問題がある。本プロジェクトは、高精度かつ核種ごとの計測を可能とする機器による計測を一般市民が利用できるようにし、人々をして食に対する不安から解放せしめること、ひいては安心して暮らしてきた日常を取り戻す糸口を提供することを目標としている。

また放射能汚染地域に住む人々は食についてだけではなく様々な不安を抱えている。特に計測所を訪れる方はその典型であることが予想される。そこで、計測所には受付業務を兼ねるカウンセラーを配置し、こころのケアをすることができるようにする。計測時間は少なくとも15分。母乳の場合は30分ほど必要になるので、カウンセリングにはよい時間となる。すべて教会のネットワークが軸となって

いるから、牧師・司祭に協力を求めることも可能であろう。不安を抱く被災者一人ひとりの安寧を祈り、励まし、生活が再建されるように手助けをしていく。私たちは教会のエキュメニカル・ネットワークを活用してそれを行なう。

## 2. プロジェクト概要

東北ヘルプといわき CERS ネットは、「共同プロジェクト」第一期（2011年12月～2012年11月）として、NCC JEDRO（日本キリスト教協議会エキュメニカル震災対策室）、他の支援団体の協力を得ながら、次のことを行なう。

- (1) 仙台市、およびいわき市に、「食品放射能計測所」を設け、専従計測者1名ずつを雇用して以下のことを行う。
- (2) 放射能汚染地域で収穫された食物の放射能を計測する。これには母乳も含まれる。
- (3) 放射能汚染地域に居住する人で、計測を希望する人の尿の放射能を計測する。
- (4) 食品放射能計測所は、少なくとも計測依頼者とドナーに対して計測結果を公表する。
- (5) 計測所内に、こころのケアの出来る人員を配置し、被災者・原発被害者にカウンセリングの門戸を開く。

## 3. 組織

(1) 上記プロジェクトの立案と運営は共同運営委員会が担い、連絡先は東北ヘルプといわき CERS ネットに置く。

- ◇共同運営委員：①川上直哉（東北ヘルプ）／②住吉英治（いわき CERS ネット）  
／③三枝千洋（東北ヘルプ）／④奥田冬樹（いわき CERS ネット）／⑤長嶋清（東北ヘルプ事務局）  
◇連絡先：東北ヘルプ 022-263-0520  
いわき CERS ネット 0246-62-3756 （0246-31-1059 奥田）

- (2) 共同運営委員会は月1回、郡山市で開催して運営方針を定めていくと共に、2カ月ごとに中間報告書をまとめる。また、教派・団体の関係者にも陪席してもらい、積極的な助言と協力を求める。
- (3) この共同プロジェクトに関する事務作業を、東北ヘルプ事務局に委託する。

## 4. 活動内容

- (1) **食品放射能計測活動**（2011年12月1日～2012年11月30日）
  - ・月曜～金曜の昼は精密計測（1時間）とする。（スタッフは交代で昼食を摂る）
  - ・毎週金曜夜～土曜日はα線核種計測の日とする。（正確な計測には22時間かかる）
  - ・原則として、セシウム137を計測する。<sup>※2</sup>
- (2) 計測所待合室における こころのケア活動 （2011年12月～2012年11月）
- (3) 食品放射能計測に関する情報発信

以上

## ※注

### ※1

現在、積極的に中通り地域での計画を立案しないのは、

- ① 環境放射線量率が精密な計測をするには高すぎる。
- ② 受け皿となる教会ネットワークが未整備。
- ③ 中通りに居住する人々の意識の特異性、すなわち、農産物の生産地であるがゆえに生産者の立場で、「国の大雑把なサンプリング測定値をもって食の安全が十分に確保されている」、「それ以外の食品放射能計測行為は風評被害をもたらす反社会行為である」、などと考える特異性があり、データの取り扱いによっては食品放射能計測所に対する強い風当たりが予想される。中通りに居住する食品放射能に不安を抱く人々が近隣に知られることなくサービスを受けるためにも、離れた地域である仙台市やいわき市に計測所を設置することが望ましいと考える。

以上の理由による。

北関東で計画を立案しない理由は、①受け皿となる教会ネットワークが未整備であることのみである。地政学的にはアジア学院周辺地域が望ましいと考えている。 祈りつつ、機を待ちたい。

福島県中通り地方の低線量率地域（須賀川市の一部、田村市の一部、福島市の西部山沿い地域など）の除染が進み、環境放射線量率が低くなったならばプロジェクトの可能性を探りたい。

### ※2

セシウム総量を計測すればセシウム 134 による放射能は半減期から推測できるので、セシウム 134 の計測は不要。

なお、計測依頼者の希望によって、計測する線種を変更することは可能である。ただし、 $\alpha$ 線核種（プルトニウム、アメリシウム、キュリウム等）に関しては正確な計測に時間がかかるので、一般の時間帯には受け付けないことがある。